

花と緑の銀行だより

177号 2010.9



シュウカイドウ / 上市町

目次	・花と緑の提言..... 2	・技術講座..... 6
	・写真コーナー..... 3	・この人あり..... 7
	・活動事例..... 4	・お知らせ..... 7
	・庭木に利用する樹種の特徴と管理..... 5	



緑の壁で都市の温暖化防止を

中央植物園

園長 内村悦三

例年、1年中でもっとも暑い8月の平均最高気温が26℃程度にしかない北海道でも今年は7月下旬に北見市で35℃を越す猛暑日があったと聞きました。本州や四国、九州の各地でもこうした高温の日が例年以上に多かった今年の夏は体力の低下した高齢者だけでなく、若齢者や幼児までが屋内外で熱中症の症状を起こし、延べ数百人もの人が救急車で病院に運ばれたのは痛ましい限りでした。

それにしても、都会で生活をしている人達にとっては年毎に低層住宅が減り、これに代わって高層ビルのオフィスやマンションが増えたことで相対的に緑化面積が少なくなり、ヒートアイランド現象が加速しています。各地に緑地や公園を設けることが今後ますます困難になると思われる都市では、オフィスの壁面緑化や屋上緑化を行うことで、少しでも外壁に直射日光が当たらないようにして温度上昇を抑える工夫をするところが増えてきました。

しかし、従来行われていた壁面緑化はヨーロッパやアメリカで見られたものを模倣したもので、洋館と呼ばれていた時代に建物の単純化された壁面に変化を持たせるために、緑化そのものよりも美化や景観を目的とした装飾用緑化樹としてのナツツタを壁面に直接這わせるというのが通例でした。その典型的な例が高校球児の憧れの的となっている甲子園球場の壁面でした。しかし、ツタ類では落葉期間中は蔓がむき出しになり、吸盤が壁面に目立つこと、また、虫類が定住すること、さらに手入れを怠ると窓も覆うようになるなどの短所が多く、必ずしも直射日光を遮り、涼風を取り入れて緑化を楽しむという目的にそぐわないため、居住を伴う壁面緑化には壁そのものに直接植物を這わせないで、壁と緑化植物との間に緩衝空間を作るように変

ってきました。これだと低層住宅ではロープやネットを必要時期だけ取り付けられることができます。また、最近の中層のマンションなどでは建築時に金属製のネットを壁から少し離して取り付けられているところもあります。こうした工夫が葉の持つ遮光性と蒸散作用によって壁面の表面温度が2℃程度低下することも分かっています。そこで使われる植物にはアサガオやクレマチスのようなつる性植物で花も観賞できる種類のものが喜ばれる傾向にあります。

都市緑化ではビルの屋上緑化も進められていますが、これまでそれほど普及しなかったのは屋上そのものが土を載せるに足りるだけの耐久性を考慮していなかったからです。しかし、最近では土壌を少なくして人工の用土を混ぜたり、保水性のある合成繊維を使うことで軽量化がはかれるようになってきました。

過日、消費電力の低減やヒートアイランド化の抑制のための都市緑化の推進に対して、来年度から固定資産税の減税措置を拡大する方針を、国土交通省が固めたと報道されました。多様な花と緑をより多く取り入れ、有効活用することで心豊かな日々が過ごせる社会の創出できることを期待しています。



壁面のノアサガオ(中央植物園)

平成22年度花のまちづくり花壇コンクール入賞花壇



学校花壇 最優秀賞
黒部市立宇奈月小学校(黒部市)



幼稚園・保育所花壇 最優秀賞
社会福祉法人四方福祉会 四方保育所(富山市)



一般花壇 最優秀賞 本江フラワー同好会(射水市)



花の道 最優秀賞 野ぎくの会(小矢部市)



個人花壇 最優秀賞 寺崎啓乃(富山市)

潤いのある地域づくり仲間づくり

メルヘン花工房 松井 恵美子

●地域の概況

浅地地区は、小矢部市の南西部に位置する旧藪波校下七集落のひとつで、東は小矢部川南から西にかけて丘陵地を配する準農村地帯です。私たちは、廃線となった加越能鉄道の藪波駅を中心に、道路沿い600メートルに花木を植えて楽しんでいます。

●花づくりを始めた動機

平成4年に知人の勧めで花の好きな近所のおばさん達20名で「花と緑で安らぎのある暮らし」を目標に花づくりを始めました。一年間指導を受け、年末には営農組合の協力で休耕田60アールに、カモミールと菜の花の種を播きました。しかし翌春、白と黄色の美しい花と素晴らしい香りが漂い始めた頃転作中止となりました(写真1)。



(写真1)カモミールと菜の花 休耕田 花工房の原点

この花を残したいという意見が多く出て植える場所を選んだのが雑草の生い茂った、ゴミの放置されている旧駅周辺でした。環境美化にも役立てばと整地してカモミールを移植したり、自宅から持ち寄った花で200メートルのフラワーロードを作りました。平成5年の春のことです。美しく咲くと嬉しくなり、次の年、また次の年と四年かけて800メートルまで延ばしました。

●管理方法

6ヶ所に区切り、中心になる人を決めて、テーマや図案等はその人が決め、植込みや除草等は全員で行います。灌水や日常管理は当番制で毎日行っています。大型機での薬剤散布や樹木の剪定、杭打等は営農組合に協力をお願いします。

●成果

- 花を植えてから雑草も少なくなりゴミの放置もなくなりましたとの声に大喜び。
- 年中何かの花が咲いているので子供



(写真2)フラワーロード

- 達から高齢の方まで散歩道として喜ばれています。県内外から見学に来て下さって色々和交流が増えました(写真2)。
- 隣接する部落から部落へと花の仲間が増え、校下に六ヶ所の花壇が誕生しました。苗や種の交換等を行い秋に行われる公民館祭りには藪波花の会として一緒に写真や作品を展示して一年間の活動を発表します。

また、花の苗や種を配布します。今年は珍しい銀銭花の種を昨年より多く配りたいねと話合っています。

- いつもパワーをもらっている保育所の園児さん「モグラさん静かにしてね」と言いながら今年もペットボトルで作った風車を立てて行ってくれました。花苗を一緒に植えたり、夏祭りに遊びに行ったりで、交流させてもらい若返らせてもらっています。
- 皆さんのお世話になりお陰様で18年も続いたグループ活動「第13回緑化祭」「国民体育大会」「冬のフェスティバル」等色々な行事や視察等に全員で参加し、他の市町村の方々と交流をしながら多くのことを教わりました。

●課題

年を重ねると共にフラワーロードは私達や地域の人達の潤いあるおしゃべり広場として益々必要になり、今後も継続することが大切です。

男性や若い人が参加して頂くことと、このフラワーロードを美しく守るために一年草から手間のかからない宿根草、緑化木へと移していくことが大きな課題です。

カナメモチやレッドロビンの生垣に発生する カナメモチごま色斑点病

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村正史

生垣としてよく使用されているカナメモチ（図-1）やレッドロビンの葉に斑点がたくさんでき、葉が落下して葉の量が少なくなったが、原因は何ですかという問い合わせが多く寄せられています。これは、カナメモチごま色斑点病という病気です。

そこで、今回はこの病気の特徴と防ぎ方を紹介するとともにカナメモチとレッドロビンの特長についても紹介します。

1. 病気の特徴

本病は、カナメモチやレッドロビンの他、シャリンバイ、カリン、ビワ等のバラ科ナシ亜科11属15種の樹木類に寄生します。

4月下旬頃から当年葉に発生します（図-2）。葉に紅色の斑点が多数生じ、発達して5mm程度の灰褐色～黒褐色の円形の病斑となります。やがて病斑周辺は鮮紅色に変わり、病斑中央部に黒色で光沢のある分生子層が生じます。これは後に亀裂を生じ、白色粘塊（分生子塊）が放出されます。被害を受けた葉は落葉し、2度吹き、3度吹きした葉も次々感染して落葉し、しだいに樹勢は弱まります。成育環境が悪い場合は、枯れることもあります。

2. 防ぎ方

被害を受けた葉は伝染源になりますので、落下した被害葉を集めるとともに枝に着いている被害葉も摘み取って、焼却してください。そうすることによって、被害の拡大を防ぐことができます。

樹木類を対象にした登録農薬としては、ベンレート水和剤（普通物で魚毒性はB類）とトップジンM水和剤（普通物で魚毒性はA類）の2つがあります。前者は2000倍液を、後者は1000倍液を発生初期に散布します。

カナメモチを対象にした登録農薬としては、

花セラピー100（普通物で魚毒性はC類）と花セピラー（普通物で魚毒性はC類）が登録されています。前者は100倍液を散布します。後者はスプレー式の容器に入っているため、原液をそのまま散布することになります。いずれも発生初期に散布します。

3. カナメモチとレッドロビンの特長

カナメモチは、日本の比較的暖かい地域に分布する常緑性の小高木です。刈り込んでもすぐに芽を吹き、小枝を密に出して茂り、新葉の色が紅く美しいので、生垣として利用されています。

レッドロビンは、カナメモチとオオカナメモチの交雑種で、新芽がカナメモチよりも鮮やかな紅色になるので、最近ではカナメモチよりもレッドロビンの方が多く植栽されています。



（図-1）カナメモチの生垣



（図-2）被害を受けた葉の表

富山で育つ宿根草の組み合わせとデザイン⑥

職藝学院
教授 渡邊美保子

シュウメイギクは、キクという名前がついていますが、キク科ではなくキンポウゲの仲間です。お盆の頃、人知れずつぼみを膨らませます。名前からくる思い込みによるものでしょうか、ようやく秋めいてきた頃にその存在に気づきます。別名ボタンキブネギクとも言われています（写真1）。



写真1：一重咲きのシュウメイギク。草丈は1 m前後。
職藝学院宿根草実験ガーデン9月中旬。

シュウメイギクは、落葉樹の下などの明るい日陰を好み、有機質に富んだ湿り気のある土なら丈夫に育つ長命な宿根草です。酸性の土を好むため、酸度調整は不要です。日当たりの良い場所でも花は咲きますが、直射日光で葉が焼けて、カサカサと音をたてるぐらいになりますのでお勧めはできません。

花は白や桃色などの一重咲きや八重咲きのものがあり、草丈が低い矮性品種もあるようです。実は、花びらのように見えているのは萼が変化したものです。中心の丸いボタンのような部分が雌しべで、その周りを見守るように囲んでいるのが雄しべの集団です。萼がはらはらと散り、それから雌しべが名残おしそうに地面に落ちた後も、真ん丸い雌しべは、黄色いタマゴボーロが浮かんでいるように見えて面白く、しばらく楽しめます（写真2）。この雌しべは12月になると、とんでもないものに変化します。綿毛が



写真2：シュウメイギクの花

煙のように風にたなびいて、空中をふわふわ舞いながら消えてゆくのです。これが種です（写真3）。富山の場合は雪が降る頃ですので、なかなか気づいてもらえないようです。

お勧めの組み合わせは、シュウメイギクとキョウガノコです。キョウガノコの手前に、シュウメイギクを植えると、早い時期から互いの葉がこんもりと繁ることで、地面の乾燥を防ぎ、雑草侵入のない安定した組み合わせになります。また冬になったら、枯れ枝をそのままにしておき、雪が解けてから細かく切り、株元にマルチングをしてください。ゆっくりと分解され追肥の必要もなくなります。



写真3：シュウメイギクの種。12月中旬。



花と野菜の栽培に魅せられて

花と緑の銀行舟橋支店舟橋地方銀行
頭取 中 村 勉

私が富山商船高等学校を卒業したのは昭和46年です。商船高校では寮生活を経験し、卒業と同時に海上の仕事に就き、以来38年間外国航路の船員として過ごしてきましたので、草花や野菜の植栽、栽培には殆ど縁が無い生活でした。

そんな私が全くの素人ながら花と野菜の栽培を手掛けたきっかけは、小さい頃の父の影響も多少あったものと思います。当時の私が父の趣味に興味があるはずもありませんが、父が母に隠れて買って来た皐月や盆栽を植え替える際に鉢用土として赤玉土、鹿沼土などを混合していたことを覚えています。

そんな自分が、花や野菜の栽培に興味を持ち始めたのは、現在住んでいる舟橋村に引越してからです。我が家は建売り住宅でしたが、玄関周りに植栽されていた樹木や草花が家とマッチしているのが気に入って、購入しました。

その後、せっかく綺麗に植栽された樹木や草花を少しでも維持しようと努力してきたことがきっかけで、舟橋村の花と緑の銀行事務局からグリーンキーパーの一員としてお誘いがあり、参加させていただくことになりました。

それからは、土作り、種まきの要領等殆ど独学で学び、自宅の玄関周りや所有していた宅地を花や野菜作りに適するように土壌改良を行い、6年間程経てやっと少しは道行く人に見て頂いて、好感がもてる様な庭になったのではないかと自負しています。

今や天候を心配し、草花や野菜の育ちや病害虫の被害などを毎日見るのが日課となり、親が子供の成長する姿を見て一喜一憂しているのと同様です。

今年4月からは花と緑の銀行舟橋地方銀行の頭取に委嘱され、頭取としての地域の緑化活動にもより率先して参加していかなければならないと考えています。

今年は10月に富山県でスポーツレクリエーション祭が開催され、舟橋村でも一部の競技が実施されますので、舟橋駅から会場までの沿道にプランターによる花の植栽を計画しています。今は開催に向けてどの様な植え付けをしようかと思案しているところです。

舟橋村では、これまで緑化や花の植栽などの活動が活発でなかったこともあり、未だグリーンキーパーの存在がよく知られていないように感じられます。今後地域の緑化を推進していくためにも、グリーンキーパーを通じた活動が重要になっていくものと思います。



〈お知らせ〉

花と緑の大会が開催されます

「花と緑といのちが輝く富山」を目指して、花と緑の功労者、花と緑のコンクール入賞者の表彰、花と緑の講演会等を下記により行います。多くの皆様の参加をお願いいたします。

- 1 日時：11月11日（木）13：30～16：15
- 2 場所：富山県民会館大ホール

花とみどり・ふれあいフェアが開催されます

多数ご参加ください

「花と緑のフェスティバル」を参加・体験型イベントとしてリニューアル。

日 時：平成22年12月3日（金）～12日（日）9：00～17：00

【前期フェア：3日～5日、後期フェア（植物園クリスマスフェスタ）11、12日】

会 場：中央植物園 サンライトホールほか 入場料：大人400円、高校生以下無料

展 示：県内生産者の花、コンテナガーデン、ミニ庭園、フラワーアレンジ、押し花、プリザーブド等

体 験：寄せ植え、フラワーアレンジ、プリザーブド、リース、苔飾り、押し花等

イベント：コンサート、マジックショー、抽選会、クイズラリー等

物 販：生花、鉢花、園芸資材、特産品、食品等



表紙写真：シュウカイドウ、シュウカイドウ科（上市町）

裏表紙写真：ゴマ（ゴマ科）と夏空（射水市）



ゴマと夏空／射水市



花と緑の銀行だより 177号

発行日 平成22年9月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

県民公園頼成の森

〒939-1431 富山県砺波市頼成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

再生紙を使用しています。